

3つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイル

知床国立公園

北海道東トレイル Hokkaido East Trail (HET)

阿寒摩周国立公園

2024.2.7
釧路自然環境事務所 ウトロ自然保護官事務所
釧路自然環境事務所 阿寒摩周国立公園管理事務所

釧路湿原国立公園

1. 北海道東トレイル「Hokkaido East Trail (HET)」 ※全線開通目標2024年秋



参考: <https://www.env.go.jp/park/shiretoko/point/index.html>

流水がつなぐ豊かな生態系、
火山が生んだ山々と
海岸断崖が織りなす雄大な景観

世界自然遺産にも登録されている知床国立公園は、火山活動や流水などによって形成された美しく雄大な景観と、野生生物の豊かさに特徴づけられます。特にヒグマやシカなどの大型哺乳類や、絶滅の恐れがある大型の猛禽類も多く生息し、それらを頂点として、様々な野生動物が相互に関係しあい、色濃く息づいています。

知床国立公園

釧路～羅臼350km + 阿寒・オンネトー58km

ひがし北海道を
歩く旅の道とは

ひがし北海道に計画中の歩く旅の道(トレイル)は、日本を代表する3つの国立公園をつなぎます。どこまでも広大な湿原、酪農地帯や畑作地帯。国内有数のカルデラ湖。地球の鼓動を感じる火山。多くの特徴的な山々や豊かな海など、多様な景観を楽しめます。縄文時代から北海道開拓へと続く人々の暮らしや歴史・文化があり、そこに住まう動物や人々の営みとの出会いがあります。太平洋、オホーツク海、根室海峡という三つの海を繋いで、中央に連なる火山帯を越え、特色の異なるエリアをひとつずつ数日間かけて歩きます。ひがし北海道の大きさを体感できる、全長350kmを越える、長く歩く旅ができる魅力に富んだロングトレイルです。

阿寒摩周国立公園

日本最大のカルデラ地形、火山・森・湖が織りなす広大な景観

北海道東部に位置する阿寒摩周国立公園の基盤は、千島火山帯の活動によってできた阿寒・屈斜路・摩周の3つのカルデラ地形です。北海道で最も歴史のある国立公園の一つで、公園区域の大部分が亜寒帯性の針葉樹林を中心とする天然林に被われ、国立公園の中でも原始的な姿を有しているといわれています。



参考: <https://www.env.go.jp/park/akan/point/index.html>



斜里町67km
羅臼町18km

日本最大の湿原と
壮大な蛇行河川、それを育む森

日本で最初のラムサール条約登録湿地であり、湿原を中心とする初の国立公園です。北海道東部を流れる釧路川とその支流を抱く日本最大の釧路湿原及び湿原を取り囲む丘陵地からなります。手つかずの広大な水平的景観はこの地の何よりの魅力です。また、国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ多くの動植物の貴重な生息地となっています。

釧路湿原国立公園



参考: <https://www.env.go.jp/park/kushiro/point/index.html>

2. 環境省「ロングトレイル」の取組みについて

(1) トレイルルート決定

総距離約400km ※弟子屈～阿寒・オンネトーを結ぶ自転車推奨区間（60km）を含む

知床、阿寒摩周、釧路湿原の3つの国立公園と地域を結ぶ、**長く一本に繋がった歩く旅の道。**

(2) 名称 **北海道東トレイル** 英名：Hokkaido East Trail

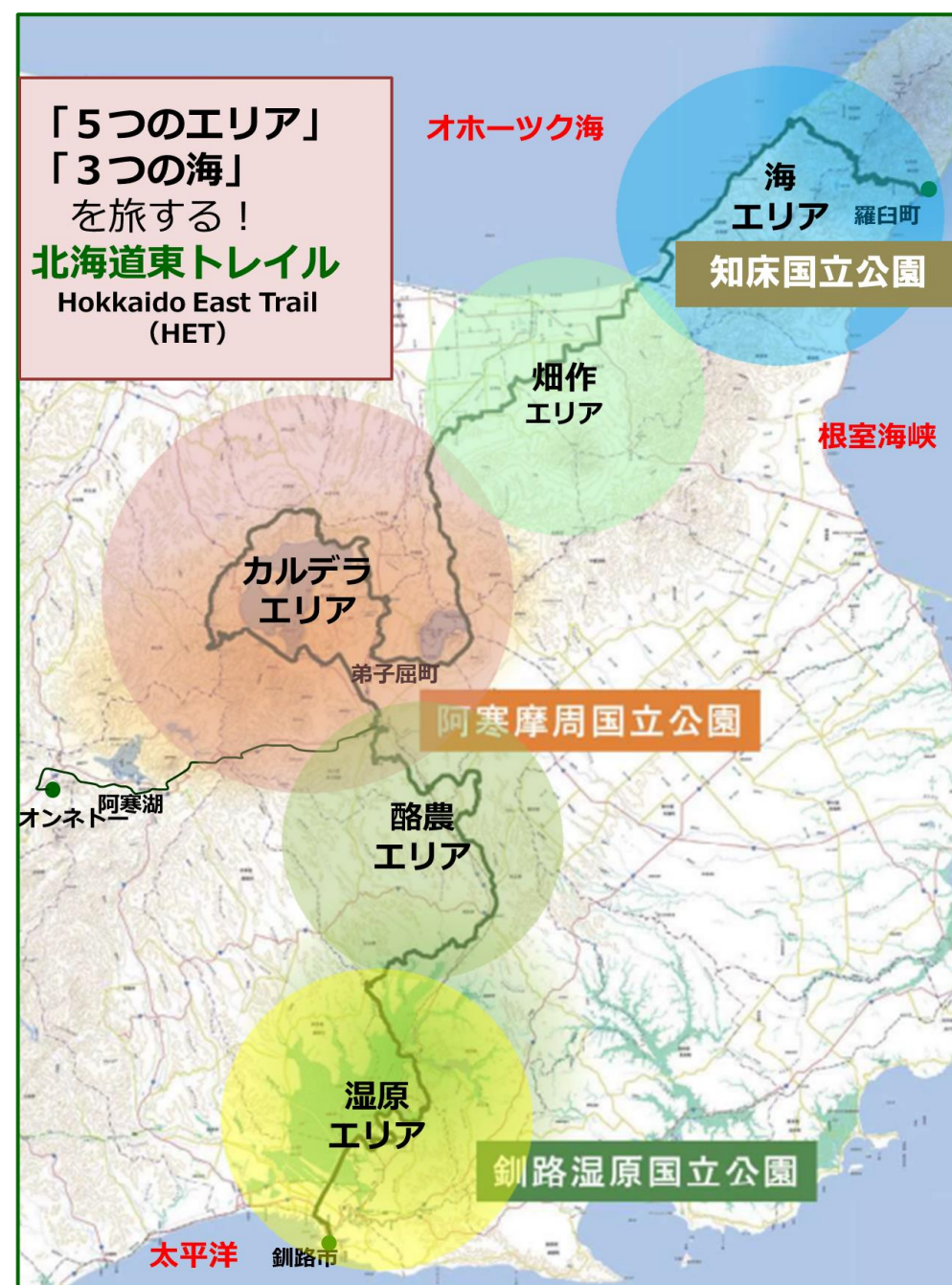
(3) ロゴマーク（案）



(4) 管理運営組織

川湯ビジターセンター内に本部を置く。
一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所（＝トレ研）が道東支部設立予定。
トレ研 長谷川代表が支部長を兼務し、専任の事務局長を置いて管理運営体制を整える方向で最終調整中。※公募により決定する

(5) 主な特徴



◆北海道から遠く離れたカムチャツカ半島から
千島火山帯に続く、知床、屈斜路、阿寒に連なる
火山地帯を横断、人々の暮らしや文化・歴史に触れ
ながら歩く道。

- ① **世界自然遺産知床の「海」**
- ② **斜里岳の裾野に広がる広大な「畑作」**
- ③ **日本最大の屈斜路「カルデラ」**
- ④ **釧路川流域の山肌に永遠と続く「酪農」**
- ⑤ **日本最大の釧路「湿原」**

◆長く1本に繋がった道は人々を魅了し、歩くことを
目的に人々が訪れる。

(6) これまでの経緯

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトの重点取組に位置づけ

- ・ **2016年**
12月 ステップアッププログラム2020 スタート
ロングトレイルの検討を開始
- ・ **2021年**
2月 阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想を阿寒摩周
国立公園満喫プロジェクト地域協議会で採択。
（3空港・3公園を繋ぐネットワークを推進）
- ・ **2022年**
8月 3つの国立公園とまちをロングトレイル調査業務開始
- ・ **2023年**
9月 トレイル名称決定
12月 ロゴマーク・トレイル憲章決定（予定）
- ・ **2024年**
2月 ルート確定、管理運営計画・管理運営体制（案）策定
3月 トレイルセンター設立＝トレ研 道東支部（案）
10月（目標）「北海道東トレイル」全線開通！

(7) カルデラエリアの取組状況

- ① **屈斜路カルデラ外輪山トレイル（仮称）**
（美幌地区三町広域観光協議会：美幌町・津別町・大空町）
2024年秋開通予定～国有林野の借受申請準備中
- ② **裏摩周西別岳トレイル（仮称）**
（主体：清里町 協力：中標津町、標茶町、弟子屈町）
2024年秋開通予定～4町合意手続き後、国有林野の借受申請予定
- ③ **藻琴山林道、屈斜路湖畔（北側）林道**
トレイルルートとして**入林届提出により通行可**（林野庁）

(8) 広域連携

国：環境省、国土交通省（北海道開発局・北海道運輸局）
林野庁（根釧西部・根釧東部・網走南部森林管理署）
道：北海道（釧路・オホーツク総合振興局、根室振興局）
関係自治体：14市町村
斜里町、羅臼町、釧路市、弟子屈町、標茶町、中標津町、清里町、
小清水町、大空町、美幌町、津別町、足寄町、釧路町、鶴居村

3. 「北海道東トレイル」管理運営体制（案）について

（1）管理運営体制（案）

北海道東トレイル管理運営計画構成員

（仮称）北海道東トレイル利用促進連絡会

川湯ビジターセンター内

情報収集・発信拠点

情報共有・連携・協力

環境省

阿寒摩周国立公園
管理事務所

・トレイル推進業務、
管理運営業務委託

弟子屈
トレイルセンター
【本部・事務局】
トレ研 道東支部 ※1

情報共有・連携・協力

弟子屈町

摩周湖観光協会
自然公園財団

・地域おこし協力隊派遣
・ルート案内、観光情報等
・窓口業務連携

各種情報・共有

※1 トレ研＝一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所

環境省直轄施設に
サテライト機能を設置

サテライト施設

路体
情報の
提供

塘路湖
エコミュージアム
センター

釧路湿原
保護官事務所

阿寒湖畔
エコミュージアム
センター

阿寒湖
管理官事務所

川湯
ビジターセンター

阿寒摩周国立
公園管理事務所

知床
世界遺産
センター

ウトロ
保護官事務所

知床羅臼
ビジターセンター

羅臼
保護官事務所

利用
状況
の
情報
提供

訪れるハイカーの窓口対応：ルート案内、地域観光案内（飲食店等）、トレイル利用に関する注意喚起、熊出没情報
共通サービス：熊スプレー・鈴レンタル、トレイルマップ・関連グッズ販売など

北海道東トレイル関係自治体
合同連絡会（14市町村）

3ブロックに分けて地域連絡会開催
（各ブロック連絡会2回、合同連絡会1回）

・路体状態、ルートに関する各種情報提供
・トレイルを活用した地域振興

釧路湿原地域連絡会

阿寒摩周地域連絡会

知床地域連絡会

オブザーバー

釧路市 ※2
鶴居村
釧路町
標茶町

釧路市 ※3
足寄町
津別町
美幌町
大空町
小清水町
弟子屈町

中標津町
清里町
斜里町
羅臼町

北海道開発局
森林管理署
北海道

※2 釧路市＝産業振興部観光振興室（釧路市街） ※3 釧路市＝産業振興部阿寒観光振興課（阿寒湖畔）

4. ロングトレイルの国内ターゲットと年齢層

経産省統計局調査データ

経済省統計局：平成23（2011）年調査データ

◆スポーツ種目の行動率順位

①15歳以上の「登山・ハイキング」の行動者数は、約1,000万人（実数972万7千人）

②年代別で見ても…
45歳～74歳まで、年代が上がるに従って増加

③また「ウォーキング・軽い体操」は、25歳以上の全世代で1位を独占。

④ロングトレイルの国内ターゲットとして、全世代で人気の高い「ウォーキング・軽い体操」と「登山・ハイキング」で、「ジョギング・マラソン」も含めると**全ての年齢層がターゲット**といえる。

⑤平成28（2016）年に実施した調査では、10～14歳までは「水泳」が最も高くなっているが、15歳以上では「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、年齢が高くなるにつれて、2位以下との差が大きくなっている。

※北海道では「サイクリング」の人気の高い傾向はあるものの、全国的にみると「ウォーキング・軽い体操」や「登山・ハイキング」の人気の高いことが分かる。

表1 年齢5歳階級別スポーツの種目の行動者率の順位－上位5位－（平成23年）

年齢	1位	2位	3位	4位	5位
15～19歳	ボウリング	ウォーキング・軽い体操	ジョギング・マラソン	バスケットボール	サッカー
20～24歳	ボウリング	ウォーキング・軽い体操	ジョギング・マラソン	野球	サッカー
25～29歳	ウォーキング・軽い体操	ボウリング	ジョギング・マラソン	器具を使ったトレーニング	スキー・スノーボード
30～34歳	ウォーキング・軽い体操	ボウリング	ジョギング・マラソン	水泳	サイクリング
35～39歳	ウォーキング・軽い体操	ボウリング	水泳	サイクリング	釣り
40～44歳	ウォーキング・軽い体操	ボウリング	水泳	サイクリング	釣り
45～49歳	ウォーキング・軽い体操	ボウリング	器具を使ったトレーニング	サイクリング	ゴルフ／登山・ハイキング
50～54歳	ウォーキング・軽い体操	ゴルフ	器具を使ったトレーニング	登山・ハイキング	ボウリング
55～59歳	ウォーキング・軽い体操	ゴルフ	登山・ハイキング	器具を使ったトレーニング	釣り
60～64歳	ウォーキング・軽い体操	登山・ハイキング	ゴルフ	器具を使ったトレーニング	釣り
65～69歳	ウォーキング・軽い体操	登山・ハイキング	ゴルフ	器具を使ったトレーニング	釣り
70～74歳	ウォーキング・軽い体操	登山・ハイキング	器具を使ったトレーニング	ゴルフ	サイクリング
75歳以上	ウォーキング・軽い体操	器具を使ったトレーニング	登山・ハイキング	ゴルフ	ゲートボール

5-1. 「北海道東トレイル」の目的と取組み

道東の大自然と広大な大地を南北に貫く一本の旅の道・・・

北海道東トレイル「Hokkaido East Trail (HET)」



◆取組目的

- ① **世界に通用するロングトレイルを道東につくる**
北海道のブランド力と道東の自然の魅力を活かし、管理された世界水準のロングトレイルルートとしてブランド化、世界の目的地になることを目指して磨き上げを図る
- ② **新たな観光価値の創出**
地域（点）から広域連携（面）の取組みで誘客を推進
地域のトレイルの取り組みを広域連携で新たな価値を創出
- ③ **トレイルを中心とした新たな利用の推進**
長く一本に繋がったロングトレイルは、サイクリングやカヌーなど、他のアクティビティと組み合わせることで利用拡大
- ④ **新しい観光スタイルの創出**
歩くことを目的とした人々の受入
- ⑤ **脱炭素の推進**
エンジンなど動力を使わない楽しみ方の提供
- ⑥ **地域活性化と地域全体のブランド力向上**

◆具体的な取組み

- ・ **トレイルルートを長く一本繋がる道として、位置づけ**
ロングトレイルを様々な楽しみ方の中心に！
- ・ **管理運営体制の構築**
歩く方々（ハイカー）のサポート窓口として、環境省等の直轄施設（知床世界遺産センター等）が連携
- ・ **ブランド化**
3つの国立公園と5つの特色あるエリアの魅力を形に！
- ・ **ブランディング**
トレイルセンター設置、及びトレイルルート全線管理と情報の一元化と発信、利用環境の向上
- ・ **プロモーション**
国内外旅行社やメディア向け情報発信

5-2. 「北海道東トレイル」から期待される効果

道東の大自然と広大な大地を南北に貫く一本の旅の道・・・

北海道東トレイル「*Hokkaido East Trail (HET)*」



◆期待される効果（狙い）

①新たな観光ビジネスの創出

旅行会社によるトレイルツアーなど

例：知床、阿寒摩周、釧路湿原、3つの国立公園を歩く旅

②新たな宿泊サービスの創出

宿泊得点として出発地点やゴール地点まで送迎など

例：歩く人を対象とした送迎付き宿泊パック

③新たな観光コンテンツの創出

JR（電車）やサイクリング、カヌー等を組み合わせた、新コンテンツが生まれる

④滞在の長期化に繋がる

歩くスピードは遅く、数日間かけて同様のエリアを歩く。
住民との交流を楽しむ

⑤まちのイメージアップ、交流・関係人口増加に繋がる

まちの魅力を発見、地域住民と旅人（ハイカー）の交流

⑥移住やリピーターに繋がる

地域の方とハイカーの交流により地域のファンが増加

◆具体的なメリット

- ・ JR釧網線の利用者増加
- ・ 道の駅、宿泊施設や温泉利用の増加
- ・ 地域の飲食店や商店、コンビニ等の利用者増加

◆運営上の留意点

- ・ 利用上の注意喚起を徹底
クマ対策
畑や牧草地など私有地への侵入対策
- ・ トレイルに関する情報一元化・情報発信
クマ出没情報、通行止め情報等
- ・ リスクマネジメントの推進
難易度・危険度等、リスクに応じてトレイル
ルートに区間を定め、区間毎にランク付け
天候やクマの動態等に基づき、トレイルルート
閉鎖情報等を発信（検討）
- ・ 情報の適正配信